健康・生活科学委員会　ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会
第 26 期第 1 回会議　議事録

日　時：2024 年 2 月 12 日(月)10 時～12 時
形　式：オンライン会議
出席者：西村、森山、中村、熊谷、浅野、井上、大久保（書記）、片田、亀井、神原、坂下、真田、田髙、手島、仲上（書記）、法橋、山本、吉沢、綿貫
欠席者：永井、新福（育休中）、三重野　（敬称略）

議　事

１．委員長、副委員長、幹事の決定
以下が承認された。
委員長：西村（会員）
副委員長：森山（会員）
幹事：大久保、仲上（連携会員）

２．第 26 期分科会等活動の方向性について（資料 1－3）
・ 分科会テーマの「人材」の漢字表記（包含する内容定義）について、「人財」「人材」のいずれの表記とするのか議論がなされた。分科会の活動目的とともに再検討する必要があるとの見解が出された。漢字表記については継続審議する。
・ 第 25 期分科会での審議内容の説明がなされ、「看護のデジタルトランスフォーメーション」、「地元創生看護」、「高度実践看護」の３つのテーマが分科会の方向性として継続することが確認された。今後の進め方については、テーマごとに班を作成し検討するか、全メンバーで総合的・統合的に検討するかの方法が話し合われた。結果、（シナリオ・ベースで状況設定を行うなど）いくつかのゴール設定を行い、まずは委員長・副委員長・幹事でドラフトを作成し、それをもとに分科会で議論をする方向となった。
・ ケアサイエンス分科会とテーマ内容が共通する点もあることから、情報共有、連携しながら進める。また、日本看護協会や日本看護系学会協議会、日本看護系大学協議会とも連携し、３つのテーマを繋げ実装するための課題や方策を検討する方向性が出された。
・ ヘルスケアの専門職だけでなく受け手である市民からの意見や考えを盛り込む必要性、ヘルスケア人材とは誰を指すのかの明確化、看護は実践の科学といいながらなぜ看護研究の成果は社会実装されないのか、また過去の看護学分科会の提言がなぜ実装出来ないのかを議論し、我々の提言が活用される方策を検討する必要性の意見が出された。

３．第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会シンポジウムの後援について（資料 4）
日本プライマリ・ケア連合学会 看護師部会シンポジウム企画「アジアにおけるプライマリ・ケア領域ナース・プラクティショナー最前線」（日本、台湾、韓国のプライマリ・ケア領域のナースプラクティッショナーの活動）が紹介され、日本学術会議看護学分科会として後援が承認された。

以上